

手話通訳  
(音声日本語-日本語)  
あり

育成 × 手話 × 芸術プロジェクト

# アート → 考える を通して

美術やパフォーマンスの世界で  
活躍するろう者(手話使用者)と  
聴者のアーティストやエドゥケーターを  
講師として招き、  
異なる立場や感覚を通して、  
新たな視点や課題を探る全5回のプログラム。

2019

9/29 ㊤ 第1回 @トット文化館  
アートを開く

10/20 ㊤ 第2回 @東京都現代美術館  
アートを体験する

11/23 ㊤ 第3回 @トット文化館  
アートと身体

12/13 ㊤ 第4回 @象の鼻テラス  
感覚の境界を超える

12/21 ㊤ 第5回 @トット文化館  
アートとマイノリティ

# アートを通して考える

言語、人種、政治、障害...アートはあらゆる境界を超える力をもっています。このプログラムでは、ろう者(手話を主要なコミュニケーション手段とする人たち)と聴者のアーティストやエドゥケーターが自身の活動や考えについて語り、ディスカッションします。異なる感覚を通して、世界の新たな側面や未来の課題を探ります。ろう者、難聴者、聴者を問わず、ぜひご参加ください。

9/29(日)

13:00-15:30

会場 A  
トット文化館

## 第1回 アートを開く

無料

多様なオーディエンスに対してどのように作品を伝えていくのか。アートとコミュニケーションについて考えます。

- 八巻 香澄 「手話という言葉を通して鑑賞する」
- 伊藤 達矢 「アート・コミュニケータが開く人と作品との関係」

10/20(日)

13:00-15:00

会場 B  
東京都現代美術館

## 第2回 アートを体験する

無料

手話を通して展覧会を体験します。

- 八巻 香澄 「MOTサテライト2019:ひろがる地図」手話ツアー ※この回は定員8名となるため、ろう者・難聴者優先とさせていただきます。

11/23(土)

13:00-15:30

会場 A  
トット文化館

## 第3回 アートと身体

無料

ろう者と聴者のアーティストが、映像とダンスを通した表現と身体について語ります。

- 百瀬 文 「ゆらぎ続ける身体を映すということ」
- 南雲 麻衣 「無音、あるいは視覚で踊るということ」

12/13(金)

19:00-21:00

会場 C  
象の鼻テラス

## 第4回 感覚の境界を超える

参加料  
500円

目が見えないインド人と耳が聞こえない日本人が登場するロードムービー『TOTA』の上映と、監督と出演者とのアフタートークを行います。

- 『TOTA』上映
- アフタートーク: 八幡 亜樹 × 零境

12/21(土)

13:00-15:30

会場 A  
トット文化館

## 第5回 アートとマイノリティ

無料

在日コリアンのアーティストとろう者の映画作家が、アートを通して少数派の文化を伝えることについて語ります。

- 金仁淑 「国や国籍を超えるアートの力」
- 牧原 依里 「映像を通して考えるろう文化」

会場 A トット文化館

〒141-0033 東京都品川区西品川2-2-16  
JR山手線「大崎駅」徒歩8分/東急大井町線「下神明駅」徒歩10分

会場 B 東京都現代美術館

〒135-0022 東京都江東区三好4丁目1-1  
東京メトロ半蔵門線「清澄白河駅」徒歩9分/都営地下鉄大江戸線「清澄白河駅」徒歩13分  
東京メトロ東西線「木場駅」徒歩15分/都営地下鉄新宿線「菊川駅」徒歩15分

会場 C 象の鼻テラス

〒231-0002 神奈川県横浜市中区海岸通1丁目1  
みなとみらい線「日本大通り駅」徒歩5分

### 申し込み方法



下記URL(QRコード)より申し込みください。  
<https://forms.gle/UeC8PFtUzrtLAyvF6>

### 問い合わせ先 営業時間: 平日9:00-17:00

社会福祉法人トット基金WS担当  
E-mail: townofsl2020@gmail.com  
TEL: 03-3779-0233 FAX: 03-3779-0206  
HP: <https://townofsl2020.wixsite.com/tsa-deaf>



育成 手話 芸術

### 講師

**伊藤 達矢** 東京藝術大学美術学部特任准教授

東京都美術館×東京藝術大学「とびらプロジェクト」では、プロジェクトマネージャを務める。共著に『美術館と大学と市民がつくるソーシャルデザインプロジェクト』(青幻舎)



**八巻 香澄** (予定) 東京都現代美術館学芸員

東京都庭園美術館でラーニングプログラムを担当し、ウェルカムルームの設置、「五感と想像力で歩く建築ツアー」、「あーととあそぶにわ」などを実施。特性の違う人達による対話を生み出すプログラムに興味を持っている。2018年より現職。



**百瀬 文** アーティスト/映像作家

1988年東京生まれ。撮影者と被写体の関係性のゆらぎを映像自体によって問い直す作品を制作している。近年の主な企画展に「六本木クロッシング2016展: 僕の身体、あなたの声」(森美術館、2016年)など。



**南雲 麻衣** アートコーディネーター/アーティスト

1989年生まれ。3歳半で失聴。5歳からモダンダンスを始める。小野寺修二(カンパニーデラシネラ)構成・演出の「鑑賞者」(あうるすぽっとプロデュース公演)出演など。近年は、当事者自身が持つ身体感覚を媒体として各分野のアーティストと作品を生み出している。



**八幡 亜樹** 映像作家

1985年生まれ。映像作家。東京藝術大学大学院先端芸術表現専攻修了。大学院在学中に『ミチコ教会』(2008)が注目され金沢21世紀美術館や森美術館などで紹介される。映像インスタレーションをあらゆる「生きること」のための思考装置と捉え、取材をベースとした制作を行っている。



**零境 DAIKEI** 舞踏家

国内のみならず欧米、南米を舞台に活動。2000年にユニット・グループ「雫」を旗揚げ、国内外で公演、ワークショップを行う。現在ユニットグループ「濃淡」に改名し、活動。また、アニメ・ストゥルブレ監督の映画『わたしの名前は...』等に出演。



**牧原 依里** 映画作家

ろう者の「音楽」をテーマにしたアート・ドキュメンタリー映画『LISTEN リッスン』(2016)を零境(DAIKEI)と共同監督。既存の映画が聴者による「聴文化」における受容を前提としていることから、ろう者当事者としての「ろう文化」の視点から問い直す映画表現を実践。



キム インスク  
**金仁淑** アーティスト

1978年生まれ。在日コリアンの家族に焦点を当てた作品で注目される。主な展覧会に「sweet hours」(光州市立美術館、2008)、「ゴ・ピトゥイーンズ展: こどもを通して見る世界」(森美術館、2014)、「愛についてアジア・コンテンポラリー」(東京都写真美術館、2018)など。



### 企画・モデレーター

**荒木 夏実** 東京藝術大学美術学部准教授

キュレーターとして三鷹市芸術文化振興財団、森美術館で現代美術の展覧会を企画、2018年より現職。現代美術を通して社会を考える企画や執筆活動を行う。主なキュレーションに「ゴ・ピトゥイーンズ展: こどもを通して見る世界」(森美術館、2014)、「ディン・Q・レ展: 明日への記憶」(同館、2015)など。



予告 11/12(火) (予定)

ジョン・ウィルソン  
イギリスの  
ミュージアム  
におけるろう者の  
鑑賞プログラム(仮)



photo credit: Stephen liffe

ろう者のキュレーター、ジョン・ウィルソン氏がろう者自身が企画するイギリスの美術館におけるプログラムについて話します。詳細は追ってHPでお知らせします。